

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
いちばん星		令和 7年11月28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		自ら整理・整頓出来るようロッカーやハンガーなどには、各自の名前や顔写真などが貼られており、玩具入れなどにも、写真で入れる容器や場所を提示している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		朝は職員がトイレ・支援室などを清掃し、使用した用具やうがい用のコップなどを消毒している。退所前は利用児も参加し、室内清掃が習慣化している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		着替えや個別での対応時（宿題や創作活動など）は、相談室や和室など利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の申し送りや振り返り・翌月の予定を決める際など、職員間で会議をしている。	休暇明けの職員に伝え忘れないようにする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価を行っていない。	小規模事業所のため、義務化しないうちは難しい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		虐待防止研修・強度行動障害研修・スキルアップ研修など、外部研修への参加を奨励しており、参加者が年々増えている。	外部研修の情報を見逃さないようにしている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		毎月の予定表や支援プログラムをホームページで公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日々の支援内容を日誌に記載し、個別支援計画作成前に支援の経過をまとめ、迎えの際などに家族からニーズ・課題を聞き取り、次の支援計画に反映させている。	アセスメントをとる時期を過ぎないように定期的に確認する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援者全員が個別支援会議に参加し、原案に対する意見や今までの支援方法・内容の課題や、利用児の今後の課題などを話し合っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日誌に個別支援計画の実施状況を記入する欄があり、毎支援ごとに記入するようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	標準化されたツールは使用していないが、これまでの経験値で独自にアセスメントを行っている。	今後もどのようなアセスメントツールが適しているか検討していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		複数の職員で話し合いながら行っている。また、集団活動が苦手な利用児が参加しやすい活動の考案など、日々の観察を通して計画立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		開始前に前日の申し送りや振り返り、課題活動の際のポイントや役割などを話し合うようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動前に必ず前日の振り返りをし、利用者の様子を職員で共有している。	支援終了後に時間をとることができないため、翌日まで記憶を留めておく工夫が必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動への参加・不参加や、間食時の菓子の選択など、選択肢を増やし自己決定できるように工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市の相談係への発達相談や担任教諭と課題等の共有を行い、支援方法を相談している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校迎えの際や支援会議の際などを利用している。また、事業所での様子や日々の支援の相談なども適宜行うようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保育園を見学させてもらい、情報共有している。今年度は就学前の利用児がいらない為、実施していない。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業前のサービス担当者会議や移行支援会議等に児発管が参加し、情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			研修等の案内には参加を検討しているが、どのタイミングで相談すべきか悩むことがある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			保護者の要望がなく、交流については各学校でもしているため、判断に迷うところだ。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		自宅送りや退所時の迎えの際の申し送りを利用し、一日の様子や気になることを伝え、共有できるように努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアトレ研修等は、法人・事業所が主体として行っていないが、関係機関等の研修を掲示し、情報提供している。	興味を示す保護者が少なく、どういふものか示すのが先になる。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約の際に説明を行っており、閲覧可能な冊子を用意してある。	保護者が説明された内容を理解しやすい、忘れないようにするために、文書をわかりやすいものにすることがある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時の申し送り、電話での対応もしており、必要に応じて、面談なども実施している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		父母の会は解散しており、就労している保護者も多く、日中に開催しても参加者が少ないため、開催する場合、時間等の検討が必要となる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情窓口担当を設置している。また、匿名での投書が出来るように、意見箱を設置している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の予定表に前月の様子などを紹介する記事を掲載し、配布している。HPにも掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が記載されている書類などは、施錠できる書庫に保管している。持ち出しが必要な場合は管理者の許可を必須としている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		必要な項目をを文字化し、説明している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		コロナ以降は行っていない。一度休止すると再開するにはかなりの労力を必要とするため、職員の負担が増大する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		簡易版を配布・提示している。	各学校のマニュアルを集めきれていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		定期通院毎に、服薬変更の確認を行い、服薬情報を共有している。	保護者から積極的に伝えてもらえるように声掛けをする必要があるが、通院に気付かないと抜けてしまうことがある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在医師の指示書を必要とする利用時がないため行っていないが、今後必要に応じて対応する。	利用開始前のアセスメントで情報収集している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、その日のうちに周知し、対策を講じるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		自立支援協議会の虐待研修等、職員全員で参加した。	日頃から話題に出せるような環境を作ることを心掛ける。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		行動制限などの同意書を得て、個別支援計画に記載している。	